国際交流基金助成事業報告書

大阪薬科大学　薬学部薬学科 3 年次生　河北 亜希

はじめに

この度、国際交流基金の助成を受けて、平成 26 年 3 月 13 日から 3 月 29 日までの 17 日間、オーストラリアのメルボルンを訪問しましたので、報告いたします。滞在中は、ホームステイをしながら語学学校 Ability English Melbourne に通い、英語力およびコミュニケーション能力の向上を図り、さらに多文化を知ることによって自分の視野を広げることを目標としました。

語学学校

元々は、ライティング・文法・スピーキングの授業を行うコースを受講するつもりでした。しかし現地に行って、話された単語が頭に浮かんでこず、何を言っているのかほとんどわからないということに気づきました。今まで単語の勉強をしていても、その単語がどのような発音をするのかあまり勉強してこなかったからです。そこで私はプロナンシエーションクラスという、私の苦手分野である、スピーキングのみの授業に特化したクラスを受講することにしました。私のクラスは生徒が 10 人おり、それぞれ国籍はブラジル・韓国・コロンビア・タイ、台湾、日本でした。授業では発音記号の読み方や、聞き間違いしやすい単語を並べて学習したり、2 人ずつペアになって対話の練習をしました。

（写真 1）先生とクラスメイト

先生の後に続いて文章を読む練習も多くあり、ネイティブの先生の発音を聞ける機会が多くありました。少人数のクラスだったため、一人ずつ丁寧に先生が見てくださるのでとてもよかったです。さらに、わからないことがあればいつでも質問して解決することができました。

金曜日は選択授業となっており、毎週好きな授業を選んで受けることができました。私はボキャブラリーの授業と学校の周辺を散策する課外授業を受けました。課外授業ではアーケードを巡りました。選択授業はさまざまなクラスの人が集まるため、別のクラスの人と交流するいい機会となりました。

（写真 2）Block Arcade にて

メルボルンでの生活

滞在先として、ホームステイを選択しました。これは現地の家庭に入ってオーストラリアの文化・言葉・習慣などを生活を通して学ぶことを目的としていたからです。ホストファミリーは韓国人の家庭でしたが、20 年以上も前からオーストラリアに住んでおられ、十分にオーストラリアの暮らしを体感することができました。シャワーは 10 分まで、洗濯は週 1 回などの決まりがあり、日本の暮らしの便利さをあらためて実感しました。さらにホームステイした家庭には私以外に 4 人の留学生（国籍はタイと中国）が住んでおり、家でもゲームなどで遊んだり、会話も積極的にしました。夜、留学生のみんなで近所のスーパーマーケットに行った際に、かばんを持っていくと危ないといわれ、比較的治安のよいオーストラリアでも夜はやはり危険なのだと感じました。

（写真 3）ホームステイメイト

家は市内から電車で 30 分のところにあり、通学にはいつも電車を使っていました。電車の中を見渡すとさまざまな人種の方が乗っており、オーストラリアは多民族国家であると強く感じました。さらに驚いたことは日本ではよく見る、スーツを着たサラリーマンがほとんど見られないことでした。こうした面でも文化の違いがあるのだと発見しました。そして朝、通学をしていてもゆったりとした時間が流れているように思え、日本とは違う国で生活をしているのだと実感しました。2 週間という限られた時間の中で、オーストラリアの文化をもっと感じたい、メルボルンをもっと知りたいと思い、学校が終わってからも市内を散策したり、カフェに行ったり、学校の友達ともいろいろなところへ遊びに行きました。

（写真 4,5）westgatepark 内にある pink lake を見に行った時のもの

留学に来た始めのころは、言いたいことがあってもすぐに頭の中で英文が浮かばないからと、黙り込んでしまうことがありました。でもまわりの友達は私がワンフレーズでも話しはじめると、時間がかかっても終わるまでちゃんと聞いてくれました。友達にめぐまれたため、話すことへの不安感がなくなり、間違っていてもいいからとにかく話そうと積極的になることができました。積極的になれたことでとてもいい出会いがありました。それは課外授業でのことですが、私から話しかけたことで友達になった子がいました。それからその子は遊びにいくときいつも私を誘ってくれました。私が楽しい充実した生活を送れたのもその時の出会いがあったからだと思っています。

（写真 6）友達の Ming と

終わりに

英語を学ぶことが楽しいと思えたのは、勉強したことが日常会話にすぐ出てきたり、覚えた英文を実際に使う場面が出てきた時にうれしさを感じることができたからです。それでもっと英語が話せるようになりたいと思いました。今回の短期留学を英語を学ぶきっかけにしたいと考えていたので、このように感じたことはこれから英語を学ぶいいモチベーションとなったと思います。

そして様々な国籍の人と交流し、考え方や国民性の違いを知ることができました。ヨーロッパや南米の国の人は、自分の意見をちゃんと持っておりイエスかノーがはっきりしていて、圧倒される場面が多くありました。ヨーロッパとアジアでは英語の発音の癖がまったく違い、ヨーロッパの人は自分の言うことが正しいとおしつけてくることもしばしばありましたが、それに立ち向かえるようになった私は少し強くなれたと思います。アジアの人はおっとりした性格で、英語の発音の癖も日本と似ており、比較的楽にコミュニケーションがとれました。色々な国籍の人と接して感じたことは、一緒に過ごす時間が長くなればなるほど、うまく言葉が話せなくとも意図していることが伝わるのはどこの国でも共通だということでした。

今回、機会を与えていただいたおかげでこのような貴重な経験ができました。ずいぶん前から留学をしてみたいと思っていましたが、なかなか勇気が出ず、行くことに踏み出せませんでした。そんな時に国際交流基金事業があることを知って、志望理由書を書き応募しました。費用面でもそうですが、このような制度が、留学をする大きな後押しになったことは間違いないです。大変感謝しています。この経験を将来に生かして、よりいっそう勉学に邁進していきたいと思います。